

下田歌子先生ってどんなひと？

下田歌子先生は今から168年前、江戸時代の安政元年（西暦1854年）に、美濃国岩村藩（今の岐阜県恵那市岩村町）で生まれました。名前は平尾銆といいました。それから82歳で亡くなるまで、宮中（天皇や皇后がすんでいるところ）ではたったり、先生になって勉強を教えたり、イギリスに行って勉強をしたり、自分で学校をつくって校長先生になったりしました。

それでは、下田歌子先生の活躍をいくつか紹介します。

◇子どもの頃 ～岩村ですごす～

小さなころから勉強好きだった歌子先生は、おばあさんから厳しく勉強を教えてもらいました。とにかく本をよく読み、7歳のころには、俳句や和歌、漢詩を読んだりつくったりしました。

また、お侍だったお父さんは勤め先の藩から何度も自宅謹慎を言いつけられたり、城に閉じ込められたりしてお給料が出なかったため、歌子先生の家はとてもまずしい暮らしでした。



岩村城址公園内にある
下田歌子勉学所

◇16歳 ～東京へ旅立つ～

明治時代になり、新しい政府になるとお父さんは東京で仕事につきます。16歳になった歌子先生もあとを追って、東京へ行くことになりました。これまで住んでいた岩村を離れ、三国山という山を越えるときに、次のような短歌をよんでいます。

綾錦 着てかえらずば 三国山
またふたたびは 越えじとぞ思ふ

（わたしは立派な人にならなければ、この三国山を
ふたたび越えて、故郷の岩村には帰りません。）



下田歌子肖像写真
(実践女子大学図書館所蔵)

◇「歌子」という名前 ～宮中ではたらく～

東京で暮らしはじめた歌子先生は、宮中（天皇や皇后がすんでいるところ）ではたらくことになりました。短歌をよむことが大変上手だったため皇后（明治天皇の奥さん）から「これからは【歌子】と名乗りなさい」と言われ、それから「歌子」と名乗るようになりました。いつも皇后のおそばでがんばってはたらくしました。

◇女の子に教育を ～実践女学校をつくる～

宮中での仕事をやめた後の歌子先生は、女子の教育のために一生けんめいがんばります。

そのころの時代、女の子が学校へ行って勉強することは、今みたいにあたり前ではありませんでした。イギリスに勉強に行き、身分に関係なく、女の子も男の子と同じ勉強をしているところを見た歌子先生は、日本に戻ってから実践女学校という学校をつくりました。そこでは身分に関係なく、多くの女の子が勉強でき、また、女の子も仕事を持ってはたらくことができるよう技術も教えました。

70歳を過ぎても教壇に立ち、なんと、多いときには5つの学校の校長先生をしていました。

歌子先生アイデア ～生徒たちに大人気～

日本初の制服

女の子でもはきやすい袴を考え、日本初の制服となりました。現在でも、大学生のお姉さんが卒業式に着ていますね。

机といす

いろいろなサイズの机といすを揃え、生徒の体の大きさにあった机といすを選べるようにしました。そうしたことで、勉強がしやすくなりました。

女の子に体育

女の子に体育なんて必要ないという時代に、体育の授業を始めました。教育には知育・徳育・体育が大事ですね。

学生の髪型

髪をととのえるのに時間がかかる女の子のために、簡単にセットできる髪型を考えました。これでいそがしい朝も安心ですね。

さあ、下田歌子先生はどんな人でしたか？大きな目標にむかう強い気持ちがあったから、苦労があってもあきらめず、こんなにもがんばれたのですね。